



未来創造科（9年生）における実践事例

教育学部附属義務教育学校後期課程 教諭 福田大介

本校の学校設定科目、未来創造科では、9年間の「自分と地域、職業、世界との関わり」についての体験的な学習を通して、自分が本当に「住みたいまち」とはどのような場所なのかについて考えさせることを目指しています。カリキュラム上、第9学年において生徒に身につけさせたい能力は○探究的な学習を通して、実社会における現状や背景を捉えながら、解決すべき課題の背景を理解し、課題の解決に必要な知識や技能を身につける。（知識及び技能）○地域の課題を見いだし、その解決につながる社会参画の方法を検討し、実践した成果を発信することができる。（思考力・判断力・表現力等）○社会の形成者であることを自覚し、他と共によりよい社会の実現を目指して行動しようとしている。（学びに向かう力、人間性等）となっています。実際の活動として生徒は、「資源とエネルギー」、「産業と観光」、「まちの安全と安心」、「保健・医療と福祉」、「人間とコミュニティ」の5つのカテゴリーから1つを選択し、実際に社会に参画する活動を通して、「住みたいまち」について自分なりに考えをまとめ、発表会で伝えることができました。

